

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000174
法人名	医療法人財団 尚温会
事業所名	グループホーム 伊予の郷
所在地	愛媛県伊予市八倉919-5
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく過ごせるよう、本人さんの意思、決定を重んじ、希望に添えられるような支援をしている
開設当初より手造りをモットーにし、食べることが好きな入居者さんに満足していただけるメニューで、食事、行事食、おやつ等を楽しんでもらっている
年に2回の家族会もだんだんと参加人数が増え、全員で60人ほどになり、家族さんも楽しみにされている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に恵まれた高台にある事業所から、道後平野を一望することができ、夜には夜景を楽しむことができる。平成12年の介護保険制度開始当初に開設された事業所は、利用者の高齢化や重度化が進行する中、地域に開かれた地域密着の事業所を目指し、職員は利用者のサービスの向上に努めている。開設当初から勤務する管理者をはじめ、長期に勤務する職員も多く、一人ひとりが熱い思いを持ち、利用者の残存機能を活かしてできることを継続させながら、毎日一人ひとりのリズムで生活が送れるよう支援している。母体病院をはじめ、訪問看護や調剤薬局とスムーズに連携が図れており、日々の健康管理を行うほか、緊急時にも迅速に対応することができるため、利用者や家族には安心感がある。管理者は「元気の源は食にあり」と考えており、出汁やソースなども手作りし、丁寧に調理された食事には職員の愛情が感じられ、利用者からも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 伊予の郷

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 野田 いその

評価完了日 26年7月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 運営理念を2ヵ所に提示しており、又勉強会等を通じて理念を共有し、実践に向けて努めている	
			(外部評価) 開設時に職員間で話し合い作成した理念のほか、利用者の言葉に共感して作成した「来てみればみんな笑顔の伊予の郷」をモットーとしている。管理者は入職時に理念等を説明しているほか、職員は事業所内に掲示している理念を就業前に確認している。毎月勉強会では職員間で話し合う機会を持ち、理念を柱としたケアが実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣ではなかなか機会が少ないが、小学生の訪問、研修生、学生さん達の訪問が多くあり支援している	
			(外部評価) 地域住民と親密な関係が築かれており、野菜などの差し入れがあるほか、日常のレクリエーションや週1回の音楽療法、法人行事等にボランティアとして参加協力をしてもらっている。小中学生の職場体験や看護学生の実習などを受け入れ、医療や福祉の次世代の担い手を育てる支援をしながら、利用者との交流をしている。秋祭りには神輿の訪問があり、利用者は楽しみにしている。また、事業所としてできることを継続させながら、地域の一員として相互の交流ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で民生委員の方や区長さんなど、地域の人々に向けていけるよう努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を行い、民生委員の方、利用者家族を交え、意見を頂いている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、消防署員、市担当者、他施設の職員等の参加を得て2か月毎に開催している。会議は事業所の取組みを報告するほか、地域の情報交換をしたり、参加者からの客観的な意見や専門性を活かしたアドバイスをもらったりしている。また、会議と一緒に地元消防団と協同して防火訓練を実施したり、認知症や感染症など身近なテーマの勉強会を開催したり、家族会等の行事を開催するなど、参加者の印象に残るものとなるよう工夫している。事業所の解決すべき課題を参加者に検討してもらい、貴重な意見をもらうなど、地域の理解と支援を得られる機会となっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市職員にも家族会、運営推進会議に参加してもらうよう取り組んでいる</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加して事業所の様子を知ってもらうほか、日頃から運営上の相談や介護保険の更新の手続き等を行っており、協力関係を築いている。市内グループホーム管理者が集まる連絡会で相互の情報交換ができており、今後は地域包括支援センターも参加予定である。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 定期的な勉強会で意識改革し、取り組んでいる</p> <p>(外部評価) 職員間で「身体拘束をしない」という意識統一ができており、正しい理解を深められるよう勉強会や話し合いをしている。玄関は施錠せず、利用者は自由に入出入りすることができず、玄関前は急な坂道や駐車場となっているため、ユニット毎の入口にはセンサーを設置し、職員が見守りをして対応している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員の意識づけに努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、その後ホームでの勉強会へと繋げている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に説明した上で契約してもらっている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、家族会及び面会時に交流している	
			(外部評価) 日常生活の中で、利用者から意見や要望を聞いている。面会時や電話で利用者の様子を伝え、家族との信頼関係を深めて意見を聞いているほか、2か月毎に「伊予の郷便り」や「誕生日新聞」を送付している。また、年2回家族会を開催し、一緒に食事会等の行事に参加して利用者の様子を見てもらい、個別に担当職員と話す時間を設け、率直な意見や不安などを言い表せる機会となっている。出された意見は、迅速に対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会後のミーティング、意見交換、又面接時に機会を設けている	
			(外部評価) 開設当初から勤務する管理者をはじめ、長期に勤務する職員も多く、日頃から気軽に意見を言いやすい信頼関係を築いている。管理者は夜勤を含めたシフトに入り、職員と一緒に業務をしているため、現場での利用者の現状などを把握している。職員は勉強会などで問題意識を持つことを学んでおり、意見や提案はよく出されている。出された意見から働きやすい環境整備をするなど、運営に反映している。また、年2回管理者は職員と面談をする機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 規定に基づいている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) できるだけ研修に参加できるように掲示している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他グループホームと交換研修をし、質の向上を図っている	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人のバッググラウンドを探り、サービスに繋げている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 見学もしてもらい、ホーム長より詳しく説明し、要望に沿うように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族と話し合いをし、アセスメントをして対応に努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) レベルに合わせて、できることをしてもらって、共に生活できるように関係を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会等において、職員と一緒に入居者さんを支えている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者さんの重度化していることもあり、現状では関係づくりは困難である (外部評価) 入居時に生活歴や馴染みの関係を利用者や家族から聞き、事業所独自の様式を使って記録し、職員間で共有している。ユニットの利用者同士をお隣さんと捉え、お裾分け等のやり取りを行うなど、馴染みの関係ができています。定年退職した職員の訪問があり、継続した交流ができるようにしています。馴染みの美容師の訪問があったり、通い慣れた理容店などに出かけられるよう支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん同士を把握して、孤立しないように支援に努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り支援を続けている 今後相談があればいつでも対応できるようにしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) レベル低下によって、意思表示や自己表現ができないことが多いが、極力本人の意向に沿うように努めている (外部評価) 日常生活の中で利用者から思いを聞いて把握するよう努めている。思いを伝えることが難しい利用者も多く、家族等から情報を聞き、利用者本位のサービスが提供できるよう職員間で検討している。利用者が「何より安楽に、安心しておだやかに過ごせるよう、その人らしくできること」を職員間で意見を出し合いながら、利用者本人の気持ちに沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の情報をもとにアセスメントをし、把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じてバイタルを計ったり、訪看と連携し状態の把握に努めており、個別にアセスメントをし、現状の把握に努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1回カンファ、必要に応じてミニカンファを行い、介護計画を作成している	
			(外部評価) 月1回のカンファレンスで職員全員で話し合い、利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。利用者毎の担当者が日々の記録を基にして毎月モニタリングを行い、半年毎に見直しをしている。また、状態の変化があった場合には、ミニカンファレンスを行い、その都度見直しをしている。家族等にも毎月介護計画を確認してもらうほか、家族会で面談を行い、現状に即した介護計画が作成できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、個別記録の記入方法を改善し、個別ケアに活かすよう努めている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況に応じて家族の協力を得て、対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の人々に協力を頂きながら、地域資源を活かし支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療連携はできているが、ご家族の協力をもっと頂けるよう 努力する	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を継続して受診する ことができるが、職員が受診介助などをしてもらえることか ら、母体病院をかかりつけ医にしている利用者が多い。母体 病院の往診や週2回訪問看護の訪問があるなど、協力体制が 整備されており、日々の健康管理を行うほか、緊急時にも迅 速に対応することができるため、利用者や家族には安心感が ある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護との関係ができている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療連携はできている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の意向を聞き、入居時に説明しているが、立地条件によ り地域との関わりは困難である	
			(外部評価) 「ターミナルに関する指針」を作成し、入居時に事業所とし て対応できる内容を利用者や家族に説明し、希望を確認して いる。今までにターミナルケアを5名経験している。利用者 の状態に応じて、家族や医師を交えて話し合い、要望に沿 った支援ができるよう努めている。職員は医療知識を習得す るため法人などの勉強会に参加しながら知識を高め、緊急時 にも適切な対応ができるよう準備している。また、高齢の利 用者が多いため、管理者は関係者との協力体制を築きながら 、チーム体制で支援ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や研修会に参加し、知識を得ているものの、再度実践力を付ける必要がある	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルに基づき、行っている	
			(外部評価) 年2回火災などを想定した避難訓練を、消防署の協力を得て実施している。訓練には地元の消防団にも参加してもらい、協力関係を築いている。法人として、入職時には実際に消火器を使用した初期消火訓練などを行い、職員の防災意識を高めている。3か月毎に緊急連絡網を使用した訓練を継続して実施している。職員は2年に1回、普通救命講習を受けている。また、運営推進会議でも災害対策をテーマにして、参加者と話し合い意見交換をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 運営理念に基づき、相手に合わせた言葉かけを心掛けている	
			(外部評価) 一人ひとりの人格を尊重しながら、温かみある言葉かけがされ、理念に沿った支援をしている。入浴や排泄の介助には、脱衣などが他の利用者に見えないようパーテーションやカーテン、のれんを使用している。また、防水シート等には手作りのカバーが掛けられ、羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表現ができない人もいるが、選択肢があるように働きかけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 相手のペースに合わせてつ、生活リズムを整えるような支援をしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 細やかな声掛けをするよう、余裕をもってケアできるよう見直す必要がある	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事メニューは職員が工夫し、旬のものを献立に入れ、誕生日には本人の好きなものや希望のものを作っている	
			(外部評価) 利用者と一緒に献立を考え、職員が食材の買い出しに行き、旬の素材などを使い地域色豊かな調理をしている。出汁やソースなども手作りし、手間暇を惜しまず調理している食事は利用者に喜ばれている。利用者も準備や片付け等できることを手伝っている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、ゆったりとした雰囲気ですべてしている。また、誕生日や行事の時には、すしやおこわなど利用者の好みを取り入れた特別メニューを提供しており、喜ばれている。家族会では、利用者と一緒に食事が楽しめるよう工夫している。また、利用者の状態に応じて食べやすいように手を加え、マヒのある利用者には食器や配置を工夫するなど、利用者が食事を食べやすいよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は全員、水分量は必要な方のみチェックし、無理をしないように必要量が確保できるよう支援している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食はしていないが、夕食後に1日1回、又は必要に応じて声掛けし、口腔ケアをしてもらったり、介助したりしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人個人の排泄パターンに合わせて、トイレ誘導を行っている	
			(外部評価) 排泄の時間や量、食事や水分の摂取量等をチェックシートに詳細に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。車椅子の利用者が増えており、トイレに車いすで入りやすいよう、ドアの形式を変更している。時間や利用者の様子を見ながら声かけをして誘導し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。便秘傾向にある利用者には、かかりつけ医に相談して排泄コントロールを行う場合もある。利用者の状態に合わせて、適切な排泄用品を検討し自立に向けた支援ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の好みに合わせた飲み物にし、水分補給に努めている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に添えられるようにしている 身体機能に合わせた入浴方法で行っている	
			(外部評価) 週2回を基本として、利用者は入浴することができる。個別浴槽が設置され、シャワーキャリーを使用したり、2人体制で介助を行うなど、安心安全に入浴できるよう支援している。車いすの利用者や体調によりシャワー浴で対応する利用者もいるが、足浴を同時に行うことにより、少しでも湯船に浸かった気分になれるよう配慮している。食後は横になり体を休める利用者も多く、タイミングを計りながら声かけをしている。また、入浴が苦手な利用者には、無理強いせず利用者に合わせた対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安眠できる様支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療(訪看)とも密に連絡し、確認している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) バックグラウンドを知り、家族からも情報を得て、楽しんでもらえるように取り組んでいる	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 時季を感じてもらえるような外出、散歩に取り組んでいる (外部評価) 利用者の希望に応じて、日頃から散歩や買い物に出かけている。利用者の高齢化や重度化に伴い、利用者全員で遠出することは困難になっているが、希望者を募り、歴史博物館などに遠出できるよう支援している。また、年に数回は利用者一人ひとりの希望する場所へドライブに出かけ、イチゴ狩りや回転ずしなどの外出を楽しめるよう支援をしている。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ここに合わせてお金を使えるように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 届いた荷物のお礼の電話をしてもらっている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 車椅子7台が離合できるようにスペースを取り、季節の花を生けたりしている	
			(外部評価) 小鳥のさえずるウッドデッキから、道後平野を一望することができ、夜には夜景を楽しむことができる。利用者の生活のリズムを整えるために、リビングなど毎日定時に職員と一緒に清掃をし清潔を保っている。車いすの利用者も多く、廊下などに置いていた家具を取り除き、スムーズに移動できる広さを確保している。壁面に神棚が祭られており、毎日お祈りをしている利用者もいる。また、手作りの神社や古い生活道具が飾られているコーナーがあり、歩行訓練をしながら昔を懐かしんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合ったもの同士、又は居心地のいい場所となるように工夫している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具、見慣れた道具を使用してもらっている	
			(外部評価) 居室はベッドと整理ダンス、洗面台が備え付けられている。自宅から利用者の思い入れのあるものや使い慣れたものを持ち込めるよう声かけしており、テレビやソファ、仏壇などを持ち込んでいる。利用者に合わせてベッドを配置するなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、壁や床等のリフォームをし、気持ち良く利用してもらえるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 身体機能に合わせて、介助バーを設置し安全に努めている	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000174
法人名	医療法人財団 尚温会
事業所名	グループホーム 伊予の郷
所在地	愛媛県伊予市八倉919-5
自己評価作成日	平成26年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成26年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを大切にその人らしさ(生活歴や残存能力を活かした活動)や楽しみのある(レクリエーションや外出など)質の高い生活を目指している。行事食や季節の食材を使った手作りで暖かくおいしい食事を提供し、昔を懐かしむ心を大切にしている。「来てみればみんな笑顔の伊予の郷」をモットーに又、地域密着型サービスに対しては、「地域社会に開かれたグループホームを目指す」という、目標を立て、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に恵まれた高台にある事業所から、道後平野を一望することができ、夜には夜景を楽しむことができる。平成12年の介護保険制度開始当初に開設された事業所は、利用者の高齢化や重度化が進行する中、地域に開かれた地域密着の事業所を目指し、職員は利用者のサービスの向上に努めている。開設当初から勤務する管理者をはじめ、長期に勤務する職員も多く、一人ひとりが熱い思いを持ち、利用者の残存機能を活かしてできることを継続させながら、毎日一人ひとりのリズムで生活が送れるよう支援している。母体病院をはじめ、訪問看護や調剤薬局とスムーズに連携が図れており、日々の健康管理を行うほか、緊急時にも迅速に対応することができるため、利用者や家族には安心感がある。管理者は「元気の源は食にあり」と考えており、出汁やソースなども手作りし、丁寧に調理された食事には職員の愛情が感じられ、利用者からも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 伊予の郷

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 野田 いその

評価完了日 26年7月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は共有しており、実践に向けて努力した。出来るだけ近隣の方々にも声をかけ行事に参加して頂いたり、中学生のボランティア等交流を深めている。	
			(外部評価) 開設時に職員間で話し合い作成した理念のほか、利用者の言葉に共感して作成した「来てみればみんな笑顔の伊予の郷」をモットーとしている。管理者は入職時に理念等を説明しているほか、職員は事業所内に掲示している理念を就業前に確認している。毎月勉強会では職員間で話し合う機会を持ち、理念を柱としたケアが実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 一部ではあるが日常的に地元の野菜を販売に来られる。その野菜の皮むきを近隣の方と一緒にしたり、音楽療法に参加されたりと、交流を深めている。	
			(外部評価) 地域住民と親密な関係が築かれており、野菜などの差し入れがあるほか、日常のレクリエーションや週1回の音楽療法、法人行事等にボランティアとして参加協力をしてもらっている。小中学生の職場体験や看護学生の実習などを受け入れ、医療や福祉の次世代の担い手を育てる支援をしながら、利用者と交流をしている。秋祭りには神輿の訪問があり、利用者は楽しみにしている。また、事業所としてできることを継続させながら、地域の一員として相互の交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域に向けホームに来訪して頂くよう声掛けし、少しずつではあるが理解していただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、行事報告を紙面で紹介したり、話し合いででた意見は職員間でも検討しサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、消防署員、市担当者、他施設の職員等の参加を得て2か月毎に開催している。会議は事業所の取組みを報告するほか、地域の情報交換をしたり、参加者からの客観的な意見や専門性を活かしたアドバイスをもらったりしている。また、会議と一緒に地元消防団と協同して防火訓練を実施したり、認知症や感染症など身近なテーマの勉強会を開催したり、家族会等の行事を開催するなど、参加者の印象に残るものとなるよう工夫している。事業所の解決すべき課題を参加者に検討してもらい、貴重な意見をもらうなど、地域の理解と支援を得られる機会となっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 連絡会等にも参加して情報交換をしたり、市の行う研修会にも参加し協力関係を築いている。運営推進会議にも参加して頂き実状を伝えている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加して事業所の様子を知ってもらうほか、日頃から運営上の相談や介護保険の更新の手続き等を行っており、協力関係を築いている。市内グループホーム管理者が集まる連絡会で相互の情報交換ができており、今後は地域包括支援センターも参加予定である。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 勉強会を通じて学び、ミーティングなどで話し合い全員がしっかり理解し身体拘束のないケアを心掛けている。</p> <p>(外部評価) 職員間で「身体拘束をしない」という意識統一ができており、正しい理解を深められるよう勉強会や話し合いをしている。玄関は施錠せず、利用者は自由に入出入りすることができず。玄関前は急な坂道や駐車場となっているため、ユニット毎の入口にはセンサーを設置し、職員が見守りをして対応している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き言葉がけによる制止等、職員間で話し合い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に行きそれを元に勉強会を開き各自把握しているが、活用する必要性が今に所見当たらない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) マニュアルがありその都度十分に説明をし理解、納得をしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等でも、面会時には個々にも要望や意見を出してもらえ る機会を設け意見を聞くようにしている。毎月ケアプランを送付して伝えることもできている。	
			(外部評価) 日常生活の中で、利用者から意見や要望を聞いている。面会時や電話で利用者の様子を伝え、家族との信頼関係を深めて意見を聞いているほか、2か月毎に「伊予の郷便り」や「誕生日新聞」を送付している。また、年2回家族会を開催し、一緒に食事会等の行事に参加して利用者の様子を見てもらい、個別に担当職員と話す時間を設け、率直な意見や不安などを言い表せる機会となっている。出された意見は、迅速に対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日常的にも、月1回のミーティングを開いている。	
			(外部評価) 開設当初から勤務する管理者をはじめ、長期に勤務する職員も多く、日頃から気軽に意見を言いやすい信頼関係を築いている。管理者は夜勤を含めたシフトに入り、職員と一緒に業務をしているため、現場での利用者の現状などを把握している。職員は勉強会などで問題意識を持つことを学んでおり、意見や提案はよく出されている。出された意見から働きやすい環境整備をするなど、運営に反映している。また、年2回管理者は職員と面談をする機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ラダー（介護技術に関する評価チェックシート）や人事考課を行うなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 機会を出来るだけ多く確保できるよう、研修会等の情報を発信し、また日程等にも配慮して受講しやすいよう支援している。ホーム内でも勉強会等で受講した内容を報告して共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡協議会の勉強会や研修に参加したり、他グループホームの運営推進会議に参加したりとサービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの習慣をなるべく変えない努力をしている。希望を伝えやすいよう、生活に慣れることをまず考えている。耳を傾け話を聴くよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に家族さんからの要望も含め、記入してもらっている。またホーム長より説明する際にも直接話をする場がある。見学・相談は随時行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 訪問診療・訪問介護との連携を取っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除、洗濯、調理等の家事は、利用者と共にしている。食事と同じものを一緒に食べている。一緒に生活する中でお互いが支えあう関係が築けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に少しでも関わってもらえるよう、担当がその月の様子を知らせるお便りをだしたり、その都度電話をし様子を伝え、共に支えあう努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外部からの訪問者もあり馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。家族の協力もあり馴染みの場所へ行ったりする。 (外部評価) 入居時に生活歴や馴染みの関係を利用者や家族から聞き、事業所独自の様式を使って記録し、職員間で共有している。ユニットの利用者同士をお隣さんと捉え、お裾分け等のやり取りを行うなど、馴染みの関係ができている。定年退職した職員の訪問があり、継続した交流ができるようにしている。馴染みの美容師の訪問があったり、通い慣れた理容店などに出かけられるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 状況を見ながら利用者同士のパイプ役になり、共に支え合えるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 出来る限りの支援を続けている。母体病院に入院した場合は時々面会に行くなどして相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話の中から、希望や意向を聞き取りその都度対応するよう心掛けている。個別ケアを取り入れたり、カンファレンスで一人一人のケアを検討し、対応を考えている	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者から思いを聞いて把握するよう努めている。思いを伝えることが難しい利用者も多く、家族等から情報を聞き、利用者本位のサービスが提供できるよう職員間で検討している。利用者が「何より安楽に、安心しておだやかに過ごせるよう、その人らしくできること」を職員間で意見を出し合いながら、利用者本人の気持ちに沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人から聞き出し、把握に努めている。入居の際にアンケートを取って参考にしてしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル、水分チェックに努め、1日の過ごし方については個人記録に記入し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的カンファレンスでの話し合い、また問題があるときはミニカンファレンスを開き、それをケアプランに反映している。	
			(外部評価) 月1回のカンファレンスで職員全員で話し合い、利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。利用者毎の担当者が日々の記録を基にして毎月モニタリングを行い、半年毎に見直しをしている。また、状態の変化があった場合には、ミニカンファレンスを行い、その都度見直しをしている。家族等にも毎月介護計画を確認してもらうほか、家族会で面談を行い、現状に即した介護計画が作成できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で常に情報交換をし個別ケアに繋げ、介護計画の見直しにも活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況に応じ、外泊、買い物などの外出等を取り入れ、一人一人のニーズに応えられるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事とともに参加し地域の中に溶け込むよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には母体の伊予病院を利用するが、希望がある方は、 本人のかかりつけ医での受診をしている。必要に応じ受診し ており、医療連携はできている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を継続して受診する ことができるが、職員が受診介助などをしてもらえることか ら、母体病院をかかりつけ医にしている利用者が多い。母体 病院の往診や週2回訪問看護の訪問があるなど、協力体制が 整備されており、日々の健康管理を行うほか、緊急時にも迅 速に対応することができるため、利用者や家族には安心感が ある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護師の訪問時に気になる様子を伝え、相談している。 急を要する場合は電話にて相談し、必要があればすぐに来て くれ対応してくれる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体が主治医のいる病院であり、情報交換や相談ができやす い。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 実際に看取りの経験もあり。必要に応じて家族・ホーム長・ 主治医で話し合いを行っている。職員、関係者全員でその意 向を把握するようにしている。	
			(外部評価) 「ターミナルに関する指針」を作成し、入居時に事業所とし て対応できる内容を利用者や家族に説明し、希望を確認して いる。今までにターミナルケアを5名経験している。利用者 の状態に応じて、家族や医師を交えて話し合い、要望に沿 った支援ができるよう努めている。職員は医療知識を習得す るため法人などの勉強会に参加しながら知識を高め、緊急時 にも適切な対応ができるよう準備している。また、高齢の利 用者が多いため、管理者は関係者との協力体制を築きながら 、チーム体制で支援ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、壁に貼りすぐに対応できるようにしている。定期的ではないが初期対応の訓練を行ったり、専門家を招いての勉強会を開いている。また外部研修にも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練を行い地域との協力体制を築いている。母体である病院全体の防災訓練にも参加し連携を取っている。	
			(外部評価) 年2回火災などを想定した避難訓練を、消防署の協力を得て実施している。訓練には地元の消防団にも参加してもらい、協力関係を築いている。法人として、入職時には実際に消火器を使用した初期消火訓練などを行い、職員の防災意識を高めている。3か月毎に緊急連絡網を使用した訓練を継続して実施している。職員は2年に1回、普通救命講習を受けている。また、運営推進会議でも災害対策をテーマにして、参加者と話し合い意見交換をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立ち、誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。また温かみのある言葉かけをするよう努力している。また、勉強会や学ぶ機会を持ち意識向上を図っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの人格を尊重しながら、温かみある言葉かけがされ、理念に沿った支援をしている。入浴や排泄の介助には、脱衣などが他の利用者に見えないようパーテーションやカーテン、のれんを使用している。また、防水シート等には手作りのカバーが掛けられ、羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 尋ねるような言い方や声掛けをし、些細なことでも本人が決められるような場面を作り、本人の希望に添えるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 現況を把握しながら、思いに配慮した個別支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個別に対応し、出来る限り支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々のレベルに応じて買い物、調理、片づけ等を一緒に行っている。また行事に合わせて季節の食材を使い、手作りの食事を楽しんでいる。	
			(外部評価) 利用者と一緒に献立を考え、職員が食材の買い出しに行き、旬の素材などを使い地域色豊かな調理をしている。出汁やソースなども手作りし、手間暇を惜しまず調理している食事は利用者に喜ばれている。利用者も準備や片付け等できることを手伝っている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、ゆったりとした雰囲気ですべてしている。また、誕生日や行事の時には、すしやおこわなど利用者の好みを取り入れた特別メニューを提供しており、喜ばれている。家族会では、利用者と一緒に食事が楽しめるよう工夫している。また、利用者の状態に応じて食べやすいように手を加え、マヒのある利用者には食器や配置を工夫するなど、利用者が食事を食べやすいよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来る範囲で支援している。食事量は全員、水分量は必要の方のみチェックシートを利用して健康管理に特に注意している。毎月1日に体重測定をし、体重の増減を比較している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人に応じた口腔ケアに取り組んでいる。声掛けや支援にて出来ている人もいるが、毎食後までは出来ていない人がいるのが現状である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 必要な方には排泄パターンシートを利用しその人にあった定期的なトイレ誘導を行い、排便については水分チェックを行い主治医と連携を図りながら利用者の状態に合わせた支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 排泄の時間や量、食事や水分の摂取量等をチェックシートに詳細に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。車椅子の利用者が増えており、トイレに車いすで入りやすいよう、ドアの形式を変更している。時間や利用者の様子を見ながら声かけをして誘導し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。便秘傾向にある利用者には、かかりつけ医に相談して排泄コントロールを行う場合もある。利用者の状態に合わせて、適切な排泄用品を検討し自立に向けた支援ができるよう努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 意識して水分摂取をしている。廊下歩行や介助バーを持つての足踏みなどで運動を促したりと、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいたように、2、3日に1回は入浴できるよう、体調や状態に合わせて支援している。</p> <p>(外部評価) 週2回を基本として、利用者は入浴することができる。個別浴槽が設置され、シャワーキャリーを使用したり、2人体制で介助を行うなど、安心安全に入浴できるよう支援している。車いすの利用者や体調によりシャワー浴で対応する利用者もいるが、足浴を同時に行うことにより、少しでも湯船に浸かった気分になれるよう配慮している。食後は横になり体を休める利用者も多く、タイミングを計りながら声かけをしている。また、入浴が苦手な利用者には、無理強いせず利用者に合わせた対応をしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人一人の状況に合わせ、お昼寝を取り入れたり、少しでも休息できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬を管理し、内容を把握し服薬支援と症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に応じ出来ることを、役割としてお願いすることで張り合いのある生活になっている。また、行事で楽しみごと等の支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子の方が多くホームの周辺は坂道なので外出は個別に対応している。玄関先やデッキで日光浴や食事ができるよう支援している。食材の買い物には職員と利用者が一緒に出掛けている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、日頃から散歩や買い物に出かけている。利用者の高齢化や重度化に伴い、利用者全員で遠出することは困難になっているが、希望者を募り、歴史博物館などに遠出できるよう支援している。また、年に数回は利用者一人ひとりの希望する場所へドライブに出かけ、イチゴ狩りや回転ずしなどの外出を楽しめるよう支援をしている。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じてお金が使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには季節感のある絵画や工作物、行事の写真を貼り、広いデッキからは景色を眺めたりできる。またトイレは三ヶ所設置しているので誘導もスムーズにできる。廊下も広く、ソファも設置されゆっくりくつろげる空間となっている。</p> <p>(外部評価) 小鳥のさえずるウッドデッキから、道後平野を一望することができ、夜には夜景を楽しむことができる。利用者の生活のリズムを整えるために、リビングなど毎日定時に職員が一緒に清掃をし清潔を保っている。車いすの利用者も多く、廊下などに置いていた家具を取り除き、スムーズに移動できる広さを確保している。壁面に神棚が祭られており、毎日お祈りをしている利用者もいる。また、手作りの神社や古い生活道具が飾られているコーナーがあり、歩行訓練をしながら昔を懐かしんでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングだけでなく、廊下にもソファや椅子を置いたり、デッキにも椅子を置くなどし、工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は広くて明るく、洗面台や押し入れも備え付けている。また、好みに合わせてソファ、ダンス、机、仏壇、テレビなど馴染みのものや生活スタイルに合わせたものを持ち込み安心して過ごせるよう努めている。家族や思い出の写真、花、手作りの品を飾るなど工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドと整理ダンス、洗面台が備え付けられている。自宅から利用者の思い入れのあるものや使い慣れたものを持ち込めるよう声かけしており、テレビやソファ、仏壇などを持ち込んでいる。利用者に合わせてベッドを配置するなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、壁や床等のリフォームをし、気持ち良く利用してもらえるように配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーの環境であり、安全確保と自立への配慮をしている。</p>	